

かわぐち しん 川口 信



信じられる未来へ
~ believe in future ~

まずは、昨年12月23日に下北山村で発生しました崩土事故、本年発生しました能登半島地震、航空機衝突事故により被害に遭われた皆様、尊い命を亡くされた皆様に謹んでお見舞いとお悔みを申し上げます。県としても、被災地の1日も早い復旧に尽力してまいります。

昨年12月7日に、県議会の本会議にて、初当選後初めての一般質問を行った内容をご報告させていただきます。引き続き、奈良県政発展のために邁進してまいりますので、更なるご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

川口 信



2023年12月定例議会 本議会

以下の内容で 一般質問しました。

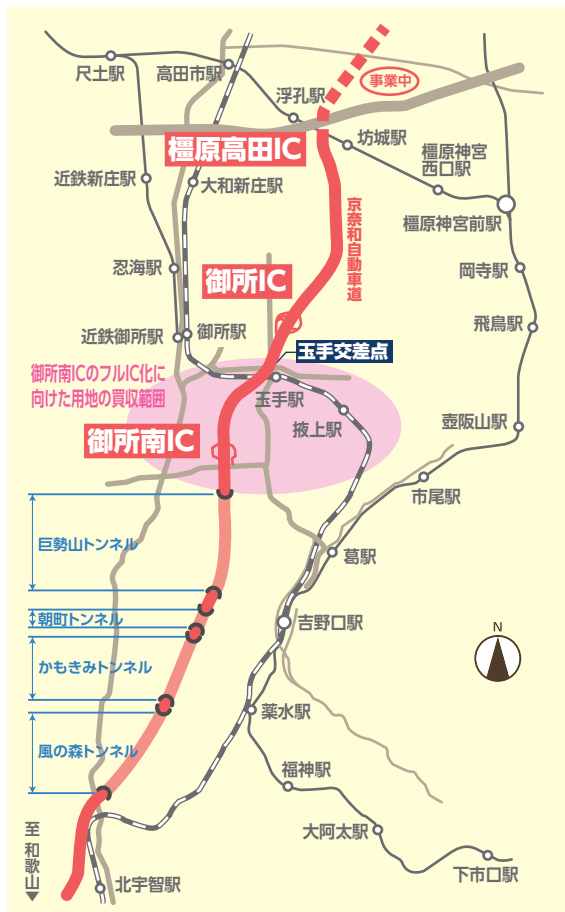
(12月7日 登壇)

- 質問① 京奈和自動車道 御所南IC付近の整備について
- 質問② 御所IC工業団地の整備について
- 質問③ 近鉄御所・JR御所駅周辺のまちづくりについて
- 質問④ 教育現場における環境整備について

動画視聴は
こちらから ▶

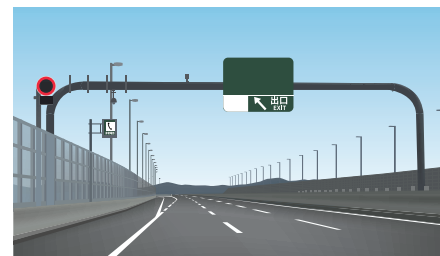


質問 1 京奈和自動車道 御所南IC付近の整備



川口 県南部地域の玄関口といえる御所南ICは、現在和歌山方面への乗り入れができない。また、トンネルが連続しており、事故発生時には通行止めになってしまう現状がある。県南部地域全体の振興や交通遮断緩和の観点から、京奈和自動車道 御所南ICのフルIC化等アクセス向上について、国に積極的に働きかけるべきであると考えているがどうか。

山下知事 A 川口県議と全く同じ意見。御所南ICのフルIC化に向けて、用地買収は済んでいるが、埋蔵文化財調査が完了していない。また御所区間の側道に関して、玉手交差点以北は概ね供用済みだが、玉手交差点以南が未供用となっている。県としては、京奈和自動車道本線のミッシングリンクの整備が最優先だと考えており、御所南IC南向きオンランプ及び側道の早期整備については、12月4日付で国土交通省に要望書を提出した。



川口 南部の道路は交通量が少ないものの、災害時の命の道になる重要な道路もあるため、「ならの道 リフレッシュプロジェクト」の中で、交通量以外の視点でも検討していただきたい。

山下知事 A 南部の道路を含む、1日一方向あたり1,000台以上の交通量がある道路、駅から主要な観光地までの道路、狭くて通行するのに危険になっている場所については、プロジェクトの予算を増額して対応していく。

ならの道リフレッシュプロジェクトの詳細についてはこちらから ▶



プロフィール

1989年2月27日 御所市大字柏原 生まれ
2001年 御所市立掖上小学校 卒業
2004年 智辯学園中学校 卒業
2007年 智辯学園高等学校 卒業
2011年 早稲田大学 先進理工学部 卒業

所属
奈良県中小企業連合会 理事
こふれ21(企業連・中企連若手経営者の会)
一般社団法人 橿原青年会議所(JCI橿原)
ダイドードリンコ杯少年野球大会 副会長



各種SNSで情報発信中です

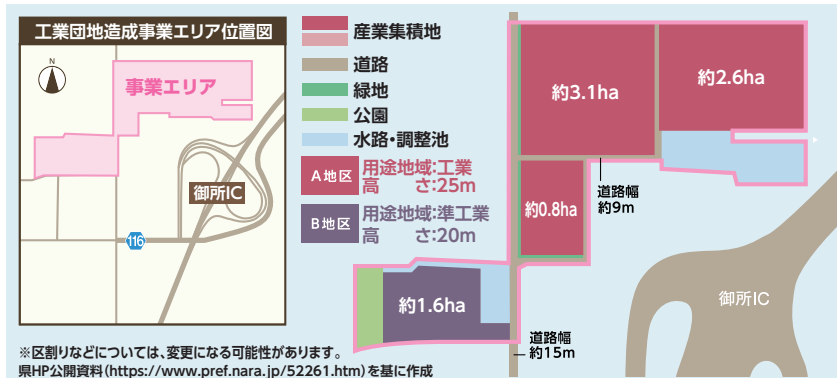


質問 2 御所IC工業団地の整備

川口 御所IC工業団地の整備に関して、企業誘致の見通しが明るいとのことだが、どのような企業を誘致し、工業団地造成事業に取り組むのか。また、具体的な引き渡し時期は決まっているのか。

山下知事 参考のために、立地意向のある企業募集を行ったところ、4区画に対し18社の応募があり、PRをかねたニーズ調査では64社から興味があるとの回答があった。多くの企業から立地意向があるため、できる限り早く進めるよう指示した。現在、文化財発掘調査や造成に向けた整備、旧御所東高校の基礎杭撤去工事、企業募集に向けた公募要領や審査基準の策定を進めている。第一期として、**早ければ2023年度中に企業募集を開始し、調査や工事がスムーズに進めば、2026年頃に引き渡し可能と聞いている。**

川口 工業団地周辺企業から、人手不足が深刻だと聞いている。先日発表した「新しい産業政策のパッケージ」内で示された、「奈良の成長に必要な8つの柱」の一つである「人材確保の抜本的強化」について、具体的に伺いたい。



山下知事 具体的な取り組みは、現在検討中。前段階で御用聞きに回った際、「県内の工業高校を卒業した学生さんが、県外に就職している」と伺った。学校と協力して就職活動前の生徒に、奈良県内の企業アピールをし、県内に踏みとどまってもらえるよう働きかけをすべきだと思っている。また、「奈良の成長に必要な8つの柱」のうち、「重点的な外国人材の呼び込み」についても同様で、県内の企業や経済団体と連携しつつ、技能実習生にも県内にとどまってもらえるような取り組みをしていかなければならないと考えている。

新しい産業政策のパッケージ資料



質問 3 近鉄御所・JR御所駅周辺のまちづくり

川口 近鉄御所駅・JR御所駅の周辺整備については、御所市が中心となる事業であると認識しているが、新たな整備計画についてのノウハウが少ないということもあるため、技術的な支援もお願いしたいと考えている。活気と魅力あるまちづくりを進めるために、引き続き、県と御所市がしっかりと連携し取り組んでいく必要があると考えるがどうか。

山下知事 「御所中心市街地地区のまちづくりに関する基本協定」に基づいて、まちづくりを計画し、検討を進めている。**県は御所市に対し、検討経費の2分の1を助成すると共に、技術的な支援も行ってきた。**また東西アクセス道路については、関係機関と協議をして進めている。今後も、県としてどのような支援ができるのか積極的に検討し、御所市としっかりと連携しながらまちづくりに取り組んでいく。

御所中心市街地地区のまちづくり基本協定について



川口 近鉄御所駅の移転に伴い、駅前ロータリー交差点の信号設置に課題があることに関して、市民から心配の声を聞いている。警察協議の状況を県としてどのように把握しているのか。

山下知事 警察との協議を重ねた結果、提示された信号設置の条件を基に、設置可能な交差点形状の検討を行っているという。

質問 4 エレベーター設置によるバリアフリー化推進

川口 文部科学省が推進している「インクルーシブ教育」を行う上で、ハード面の整備として学校のバリアフリー化を進めることは重要であると考えている。しかし、義務教育でない高等学校には具体的な設置目標がなく、学校関係者からは、生徒の受け入れに課題があるという話も伺っている。県立高等学校や特別支援学校で、エレベーター設置を推進することで、学校教育環境のバリアフリー化を進める必要があると考えるが、県として今後どのように取り組んでいくのか。

吉田教育長 点字や代読による受験などの制度的なバリアと、階段昇降機設置等の物理的なバリア、両面でのバリアフリー化を推進してきた。**エレベーター設置は増築にあたるため、大規模改修や建て替えを行うときに検討することとしている。**今後も、制度的なバリアフリーを充実させ、物理的なバリアフリーが遅れている学校では、インクルーシブ

教育の推進による心のバリアフリーを実現することで、安心して学校生活を送れるよう取り組んでいく。

川口 在校生や進学予定者の方からエレベーター設置の要望があった場合、県としては現状導入検討が不可能ということなのか。

吉田教育長 進学見込みの段階でエレベーターを設置することはできないことに加え、設計から設置まで2年は必要なため、早くても生徒が3年生のときに完成することになる。そのため、設置をしないというわけではないが、**心のバリアフリーを実現するために、インクルーシブ教育の推進を最優先したい。**

文部科学省のバリアフリー化に関するこれまでの主な取り組み

